

JOMONESQUE JAPAN

ジョーモネスク ジャパン



寄稿

自然との共生 現代世界に

中越震災復興支援…
長岡市柿町の環境と地域再生にむけて

発会記念式典／モニュメント建設資金寄附者名簿

vol.1

自然との共生 現代世界に

NPO法人 ジョーモネスクジャパン理事長 小林 達雄



縄

文は世界に冠たる異端児だ。

とにかく西アジアに登場した新石器文化とは土器を保有するという強い共通性を示しながらも、縄文は肝心要の農耕をもたないものである。だから大きな欠点を抱えた新石器文化の傍流あるいは

不完全極まりない新石器の劣等生と見下されてきたのではあるが、それは縄文学の開基山内(やまのうも)清男(すがお)博士以来の根強い偏見と言わねばならない。けれども縄文文化の魅力に取り憑かれて文明に格上げしたり、新石器文化から生まれた世界四大文明に割りこませて五大文明を標榜したりするのは見当ちがいである。

たしかに新石器は農耕と密接に関係するが、それが直ちに歴史的眞価を意味するのではなく、むしろ定住的なムラを営む事実こそ重大な歴史的意義があり、農耕はあくまで定住に到達する重要な手段にすぎない。縄文として耐久性のある堅穴住居に寝起きする定住社会を実現しており、両者の歴史性に優劣はなく、同格なのである。

その縄文世界は日本列島全域に行き渡っていて、まさに縄文列島とも呼ぶことができるが、決して一枚岩というわけではなかった。実際は特徴的な土器様式に象徴されるいくつもの文化圏に分かれていた。南北海道と北東北もその一つであり、津軽海峡を挟んで終始一衣帯水のまとまりを示していたのである。

しかもこの津軽海峡文化圏は縄文前期から中期の円筒土器や、晩期の亀ヶ岡式土器(青森県つがる市・亀ヶ岡遺跡出土の土器を指標にする土器様式)に代表される強烈な個性で他を圧倒して縄文文化を主導するほどの文化力を発揮していたのである。たとえばヒスイの玉類の保有数は唯一の原産地新潟県域以外にあって最も多数を誇る事実の示す通りである。

さらに注目すべきは、ストーンサークルや巨木柱列や土盛り遺構のめざましい発達である。いずれもが縄文の日常性からは想像を絶するほどの規模を特徴としている。その造営を可能とした大勢の動員力や長期にわたる工事の継続性を保障する背景には確固たる社会的組織の成長が推定されるのである。それにしても遠目にも鮮やかな代物にもかかわらず、どう見立てても腹の足しになるような施設ではない不思議がある。おそらくは縄文人の心ばえから創造された記念物モニュメントとして、まつり、儀礼の執行される聖所を象徴するものなのであろう。



近年、こうした記念物に隠されていた極めて重大な事実が明らかになってきた。つまり場所の選定やカタチの設計には特定の方位が意識されていて、春分、秋分、夏至、冬至の日の出や日の入りを指示しているのである。イギリスのストーンヘンジのしかけと同じであるばかりか、約千年も古く溯るのである。この点に限ってみても、まさに世界に気を吐く縄文の面目躍如たるものを知るのである。

ところで、いま我々に必要なのは縄文文化の核心へのさらなる接近である。

縄文はムラのソト(外)に広がるハラ(原)から食料や道具作りに必要な資材を入手しながらも、一方的に略奪するのではなく、自然的秩序をちゃんと残したまま、決して共存共生の関係を崩してはいなかったのである。かたや大陸側の新石器はムラの周囲にハラを自然を許さず、食料増産のために農地=ノラ(野良)へと開墾すべき遊休地と見做していた。この自然に対する止むことなき干渉を通して効率が追求され、結果として技術の発達を促しはしたが、そのことがかえって近年ヨーロッパの合理主義へと加速させ、ついには地球温暖化や環境破壊に通ずる袋小路に迷い込んで身動きさえもままならなくなったのである。

いま改めて自然と共生した縄文精神が求められているのは、日本列島の歴史を越えた現代世界へのメッセージが含まれているからにほかならない。南北海道と北東北の縄文遺跡の世界遺産登録を推進すべき意義はまさにここにあるのだ。昨年秋にはイギリス大英博物館で開催された縄文土偶展には、北海道から著保内野出土の国宝土偶など5点が出品されており、私も同博物館で開かれた日本の縄文文化について紹介するシンポジウムに参加してきたのである。

中越震災復興支援… 長岡市柿町の環境と地域再生にむけて

副理事長 鈴木重吉

昭 和50年代を境に全国的に中山間地の疲弊とそれに起因する国土保全の危機がクローズアップされてきましたが、長岡市柿町は加えて、先の中越大震災の被災が引き金となって人口の減少とコミュニティーの弱体が加速し、将来の集落維持に黄信号が点滅し始めたのです。

柿町と言えば縄文中期の遺跡（山下遺跡）が確認され、ジョーモネスクジャパンも6年ほど前から調査研究を支援してきた地域です。地域の皆さんはこの現状を重く受け止め「縄文をキーワードにした地域活性化」の推進母体として昨年春に「ざいごうの里縄文山下をよみがえらせる会」を結成し、集落の活性化に向けた活動がスタートしました。

当会への協力依頼を受け、理事会では会の趣旨とも合致することから、「会を挙げて支援して行こう」ということになり、里山のランドスケープをはじめ遺跡の保全と利活用など小林理事長を先頭に直接監修に入ることになりました。

以下は、柿地域のこれまでの活動状況です。ここに至るまでの因縁もあって今後会として積極的にかかわるだけでなく、会の活動拠点の一部として協働してゆきたいと思いますので、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。



- ① 柿集落センターにて縄文山下遺跡の保全計画を協議（正面中央は小林理事長・左は宮尾理事）
- ② 現地踏査 ③ 集落再生プランのアドバイス ④ 取組の心意気が伝わる活動アピール看板
- ⑤ 山下遺跡発掘現場付近を中心に始まった環境整備活動（メンバー集合写真） ⑥ 縄文ランド構想

イベント

発会記念式典が開催されました。

平成21年9月12日(土)午後1時より新潟県立歴史博物館前に設置された火焰土器レプリカ前で長岡市長をはじめ多くの来賓・募金して頂いた皆様をお迎えし、王冠型土器モニュメント除幕式が挙行されました。その後、記念講演会として新潟県立歴史博物館講堂において、「縄文の思想」というテーマ

で講師:小林達雄理事長にご講演をいただきました。また、アクアーレ長岡を会場に懇親会が行われ、会の活動のスタートを記念するとても有意義な一日となりました。ご支援いただいた皆様に感謝申し上げます。



お知らせ

モニュメント建設資金寄附者名簿 (3月末日集計)

10万円以上

■企業・団体

(株)京都科学 (株)鈴木造園 大成エンジニアリング(株)
(株)トータルメディア開発研究所 (社)長岡市緑地協会
長岡商工会議所

■個人

内山 弘 小林達雄 近藤道弥 鈴木重吉 原 信一

5万円以上

■企業・団体

太田クリニック 近藤産業(株) NPO縄文の杜をつくる会
(株)丹青社 日本通運(株) (株)武蔵文化財研究所

1万円以上

■企業・団体

(株)アダチ造形社 (有)鴨川館 高速印刷(株)アイプランニング
ざいごうの里縄文山下をよみがえらせる会 (株)サトミ産業
四郎丸バドミントンクラブ スタジオかむろ真鶴
(株)東京ロストワックス (有)富岡産業 長岡トラック(株)
(株)パートナーズプロジェクト (株)パスコ (有)日の出産業
北越印刷(株)

■個人

青柳 勝 青柳保子 安達左悦 安達武男 安孫子昭二
阿部幸雄 荒井 昭 伊知地信人 伊部 登 植田 真
内川隆志 江口英夫 大川 進 大熊 孝 大関正夫
大原久治 大脇 進 小熊正志 小田原精二 神林昭一

木村祐治 五島保夫 小林美砂子 小林美津子 小林由邦
小林 徳 小林繁春 近藤ヨシ子 斎藤栄一 佐藤和行
清水雅子 下田邦夫 鈴木京子 鈴木顕治 大工原 豊
高木章子 高橋茂人 寺崎裕助 中島太郎 西川平隆
西川千佳子 西田泰民 根津 紘 浜田 秀 早川 泉
広瀬久子 星野紀子 宮田 毅 森 京子 吉荒栄一
吉澤和子 吉野清一 脇屋雄介 鷺頭隆一 渡辺テツオ

1万円以下

■企業・団体

関越総合不動産 宿 花海館

■個人

相澤新弥 安達孝義 五十嵐 洋 茨木 学 尾崎秀一
加藤里美 神林長一 桑野なみ 桑野穂子 小林和花
小林元気 小林優快 小林惟吹 小林雄吾 小林雅弘
小山和夫 佐藤涼子 菅原茂生 高村敏則 竹石裕子
竹石惇樹 竹部和久 棚橋秀史 鳥越益喜 西田静夫
水沢敏夫 渡辺富夫 渡邊美生 渡辺千雅 小嶋英範

奉銘板設置報告会

7月24日(土) 午後6時から

・会場/長岡商工会議所 3階会議室
・懇親会費 3,000円(当日)

NPO法人 ジョーモネスクジャパン

代表 小林達雄 〒940-0065 新潟県長岡市坂之上町2-1-1 長岡商工会議所内 TEL0258-32-4500 FAX0258-34-4500
2010年6月 日発行 編集:クリエイティブ波 印刷:高速印刷(株)メディア事業部 アイプランニング